

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 杉並区立西田小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒167-0051 杉並区荻窪 1-38-15
E-mail ARAI-MASAAKI@city.suginami.lg.jp
Website http://www.suginami-school.lg.jp/nishitashou
幼児児童生徒数 男子 313 名 女子 290 名 合計 603 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では本年度より教育目標を改訂し、ユネスコスクールとして取り組む「ESD」の視点から、全教育活動を見直し、「気付き・考え・行動する子」の育成を、全教育課程を通して、学校・保護者・地域と協働しながら推進することを目標とした。人・自然・社会などとの「かかわり」や「つながり」を大切にしながら、世界的な視野で課題について考え、足元から行動する子供を育成することが本校の育てたい児童像である。

具体的には各学年で次のようなテーマで学習を行っている。

- ◆1 年「森となかよし」(身近な自然：SDGs 15)
森に親しむ必要性と間伐材の活用、ネイチャーゲーム、自然物の触れ合い
- ◆2 年「私たちの町のたからもの」(地域遺産：SDGs 11・15)
地域のよさや守るものを見直し、地域を紹介するガイドツアーを考える
- ◆3 年「しぜんとともにくらそう」(豊かな自然：SDGs 11・15)
水生動物・昆虫・野鳥の観察、すみかの工夫と作成、身近な自然環境の調査を通して住みよい環境を作る。

◆4年「みんなにやさしい町づくり」(福祉:SDGs3・10・11)

障害者の方々や福祉事業関係者との交流、福祉体験を通して街づくりの在り方を見直す。

◆5年「世界を見直して環境を考えよう」(世界環境:SDGs7・12・13・14・15)

自然環境への客観的認識、世界環境の事例と対策について関係者(オイスカ関係者・現地「子供の森プロジェクト」青少年)との交流・意見交換を行う。

◆6年「世界に向けて羽ばたこう」(平和・国際協力:SDGs1・10・16)

難民と「服のチカラプロジェクト」、テレジン収容所の話と絵画ガイド、日本の戦争体験と世界紛争ー関係者との交流を通して平和について考える。



1年: 森の積み木プログラム
(公益財団法人オイスカとの連携)



5年: 世界の環境についての交換授業
(公益財団法人オイスカとの連携)



6年: 届けよう服のチカラプロジェクト
(洋服会社・UNHCR との連携)



3年: 校内のフィールドワーク
(環境ネットワークとの連携)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input checked="" type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input checked="" type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

<ul style="list-style-type: none"> ・2030 アジェンダ 国連広報センターのウェブサイト ・MDGsからSDGsへ 日本ユニセフ協会のウェブサイトと関連動画 ・セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの冊子 ・野村路子著 テレジン収容所の小さな画家たち詩人たち 他 ・公益財団法人オイスカホームページ 他 ・その他 原爆、難民、環境、福祉、昆虫等の書籍
--

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコスクールとして ESD カレンダーを作成し、教科領域の縦横的な単元を作成し、カレンダーの検討・改善を図る。 ・ESD を位置付けた学習活動は、生活科の学習および総合的な学習の時間を重点とし、学校行事や特別活動等、教育活動全体においても児童が主体的に課題に取り組み、ESD の推進を図る。 ・「ESD 子供報告会」を実施し、児童が一年間学習した成果を広く発信するとともに、保護者や地域との関わりを多くし、保護者や地域の ESD に対する理解を深める。

③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・教職員研修会「ESD を語る会」を設置し、学年を超えた教員間で単元開発について話し合う場とすることで授業改善を図った。(年 6 回実施)
- ・オリンピック・パラリンピック教育と関連させ、授業の充実を図るとともに、国際理解や交流、伝統文化、ボランティア活動を重視した。(全学年)
- ・委員会活動や学校行事に ESD の内容を取り入れ、ホールスクールアプローチになるように工夫している。
- ・学校支援本部や地域の関係諸機関と連携し、指導計画作成に継続的にかわる体制を整えた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

本校では、教育調査等を利用し保護者や児童の意識調査を行う他、全国学力・学習状況調査の他、都、区が実施する調査の結果から児童の学習状況を把握している。

保護者の意識調査では、本校の特色ある教育活動での効果については70%の保護者が肯定的な評価をし、昨年度より16%の上昇になる。ESDの導入が保護者から高い評価を受けた。児童の探求的な意識を調べると、「課題を見付ける意欲・協働的に活動する意欲」は76.3%、「各教科での学びを関連させて生かす意欲」は87.5%と区内の学校平均より16%ほど高い数値となった。ESDの取組が児童の成長に効果が出ている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

- ・全児童による「ESD 子供報告会」を設定し、保護者・地域・関係諸機関に子供の学びを発信した。(2月の土曜公開日)
- ・2月に本校の研究報告会を実施した。他府県からも参観者が来校した。また、他区市のユネスコスクール3校と実践交流する場を設け、教員の研修となった。
- ・ユネスコ協会や環境教育学会等で本校の実践を発表し、ESDに取り組む学校教育の必要性を訴えた。これらの発信により、ユネスコスクールとしての成果を発信した。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

- 研究会には研究者を招き、研究協議会に参加してもらった（年間 50 人）
- 他のユネスコスクールの校内研に教職員を参加させ研修の場とした。
- ACCU から講師を招いた研修や国内の ESD 研究大会に参加した。
- 外部の教育団体との連携し学習の充実を図った。
例：区緑公園課、郷土博物館等の関係諸機関、環境ネットワーク、ケア 24、ふれあいの家、オイスカ等の NGO や NPO 団体、視覚障害者等との交流、ユニクロ、UNHCR、テレジンを語り継ぐ会、原爆被爆者の会

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200 字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

【海外との交流】

- 海外ユネスコスクールからの視察（本年度 9 か国、年間 80 人）を受け入れた。
- 海外との交流機会を使って、日本文化の紹介や環境問題への意見交換、歓迎セレモニー等を実施。受入れ体制が整えられてきた。

【国内での交流】

- ACCU が開催した研修会や文科省の ESD 研究大会等に参加し、国内のユネスコスクールと実践報告等を行った。
- 2月に他のユネスコスクール3校(清瀬市立清明小学校、多摩市立多摩第二小学校、大田区立大森第六中学校)との実践交流会を実施し、他校の実践を学ぶ機会とした。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200 字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

- ESD 子供報告会や研究発表会を通してユネスコスクールとしての活動を発信することで、ESD に取り組みが、保護者に理解されるようになった。今年度は児童の活動でも SDGs の意識化を図った。
- 学校支援本部・同窓会・学校との協働事業で地域イベントを企画し、持続可能な街づくりに取り組んでいる。各自治会との連携も進んでいる。
- 今年度は海外からの視察を 80 名受入れ児童と交流する機会が多い。視察対応のため PTA による「おもてなし隊」を結成し、PTA の参画も図った。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- ESDカレンダーの見直し
教科等横断的な指導は絶えず改善・更新し授業の充実を図る。
- 学習活動の修正および作成と授業実践
関係諸機関との連携をより密にし、連携時期や内容など改善・修正を行う。
- 学習者のノート・作品等による学習の深まり調査
児童の学習の履歴に視点を置き、児童のノートや作品に着目して評価するとともに、学習への振り返りを充実させる。
- ESD実践発表会の実施とESDシンポジウム等の開催
毎年ESD子供報告会を開催するとともに、ESDを授業に取り入れた指導の工夫や学校経営の在り方についてシンポジウムを開催し、広く広報する。
- 保護者・地域・関係諸機関への意識調査と考察
ユネスコスクールとしての本校の取組に対し、保護者や地域、連携した関係諸機関の意識についても調査する。
- ESD実践報告書のまとめと広報
本校の3年間の取組を報告するとともに、実践についてはHPを活用し、国内外に広く発信する。